

WHO方式

がん疼痛治療法が示す5つの基本原則

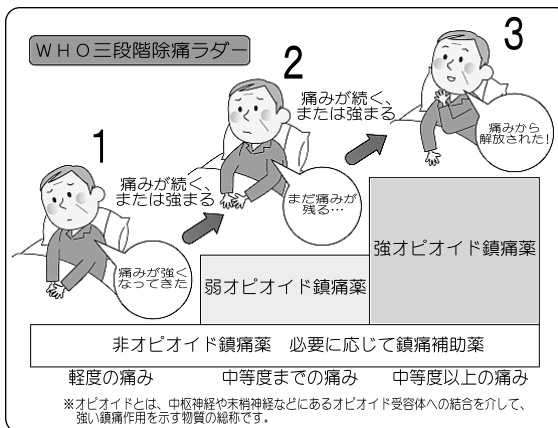


痛み治療の目標

- 第1目標：痛みのために眠りが妨げられない。
- 第2目標：安静にしていれば痛みを感じない。
- 第3目標：身体を動かしても痛みを感じない。

WHO方式がん疼痛治療法に則って適切な鎮痛薬治療を行えば、70～90%のがん患者様の痛みを消失させることができます。

WHO方式がん疼痛治療法は、がん治療にかかわるすべての医療者が身につけておくべき治療法です。がんの痛みに対する鎮痛薬の効果的な使い方に関する5つの基本原則を示していて、これを厳守することが良き治療成果を得るための鍵となります。



① 経口的に

鎮痛薬は可能な限り経口投与します。

② 時刻を決めて規則正しく

24時間にわたり痛みを除去するために、一定の時間間隔ごとの定時的投与とします。

③ 除痛ラダーにそって効力順に

痛みの強さに応じた効力の鎮痛薬を選択します。(図1)

いつも第1段階の薬から始める必要はなく、痛みの強さに応じた段階の薬を選んで投与を開始します。

④ 患者様ごとの個別的な量で

いずれのオピオイド鎮痛薬も痛みが消える量に大きな個人差がありますので、痛みが消える十分な量へと増減調整して個別的な痛みが消える量を求めます。

ときには増減調整に数日かかることもありますが、痛みが消える至適量が決めれば、この量を反復投与します。

⑤ そのうえで細かい配慮を

十分な副作用対策を行い、患者様の心理状態にも配慮しながら、鎮痛効果を継続的に監視していきます。

医療用麻薬を正しく知るために

◇ 医療用麻薬とは？

がんの痛みに対しては、さまざまな痛み止めが使われます。痛みが中くらいまたは強い場合に使われるのが、オピオイド系の痛み止めで、その中でも「麻薬及び向精神薬取締法」で規制されている薬を医療用麻薬と呼びます。

◇ 医療用麻薬を使うのは、末期がんの患者様ですよね？

末期がんの患者様に使うだけではありません。痛みの程度に応じて、早い時期から医療用麻薬を使うことのほうが、実は多いのです。

◇ 医療用麻薬を使うと中毒になりませんか？

痛みのある人が適切に使えば、中毒になりません。

◇ だんだん効かなくなってくるのでは？

痛みが自体が強まっている場合がほとんどです。増量などで和らげることができます。

医療用麻薬に対する不安は軽くなりましたか？

痛みは我慢せず、早く和らげましょう。(看護師 西岡 博子)



ホームページが新しくなりました
 曾山医院の新しいホームページ
 は、下記のアドレスになります。
<http://soyama-clinic.com/>
 これからも、よろしくお願ひします。

ふれあい曾山医院

胃腸科・外科・内科・肛門科 <http://soyama-clinic.com/>

志筑1391-9
Tel:62-5566

2017年9月号
(第110号)

発行人
曾山 信彦



編集委員会



藤島・棟近
西岡・福井
谷岡・赤松
山内・廣岡